

YOKOHAMA

エコアクション21
環境経営レポート2024

(対象期間 46期 2023年9月～2024年8月)

2024年11月 08日 作成

2025年01月 07日 改訂



伸光写真サービス株式会社

目 次

1.	会社概要	2
2.	対象範囲（認証・登録範囲）	3
3.	環境経営方針	4
4.	環境経営目標（今期46期及び中長期目標）	5
5.	環境経営計画（今期 46期）	6
6.	環境経営目標の実績値・取組結果とその評価（今期 46期）	8
7.	環境経営計画（次期 47期の取組内容）	10
8.	環境関連法規等の遵守状況の確認・評価結果・違反、訴訟等の有無	11
9.	代表者による全体評価と見直しの結果	11



当社のSDGsとのつながり



材料等資源の有効利用



土壤汚染から地域を守る



水の利用効率を大幅に改善しきれいな排水に



気候変動対策(CO2削減)



さらなる電子化の促進



海洋汚染の防止

当社は電子業界の最先端技術を積極的に取入れ、人類・社会の進歩発展に貢献し全従業員の幸福を追求します。

当社は様々な分野のプリント配線板の試作品を製作しています。

私たちの製作しているプリント配線板は世界の人々を結びつけ、宇宙開発にも貢献しています。

持続可能な地球・世界にするために、私たちに何ができるでしょうか！

1. 会社概要

所在地 〒224-0053 横浜市都筑区池辺町4363-18

設 立 昭和 52 年 7 月 1 日

代表者 代表取締役 峯村儀勝

資本金 3,450万円

環境管理責任者 柏倉 宏美

連絡先 〒224-0053 横浜市都筑区池辺町4363-18

TEL : 045(933)8311

FAX : 045(933)8318

事業内容 プリント配線板の製造、メタルエッチング及び
工業用精密マスクの製造

事業の規模 主要製品の生産量 / 出荷額 1.8t / 279百万円

従業員総数 25名

床面積 660m²

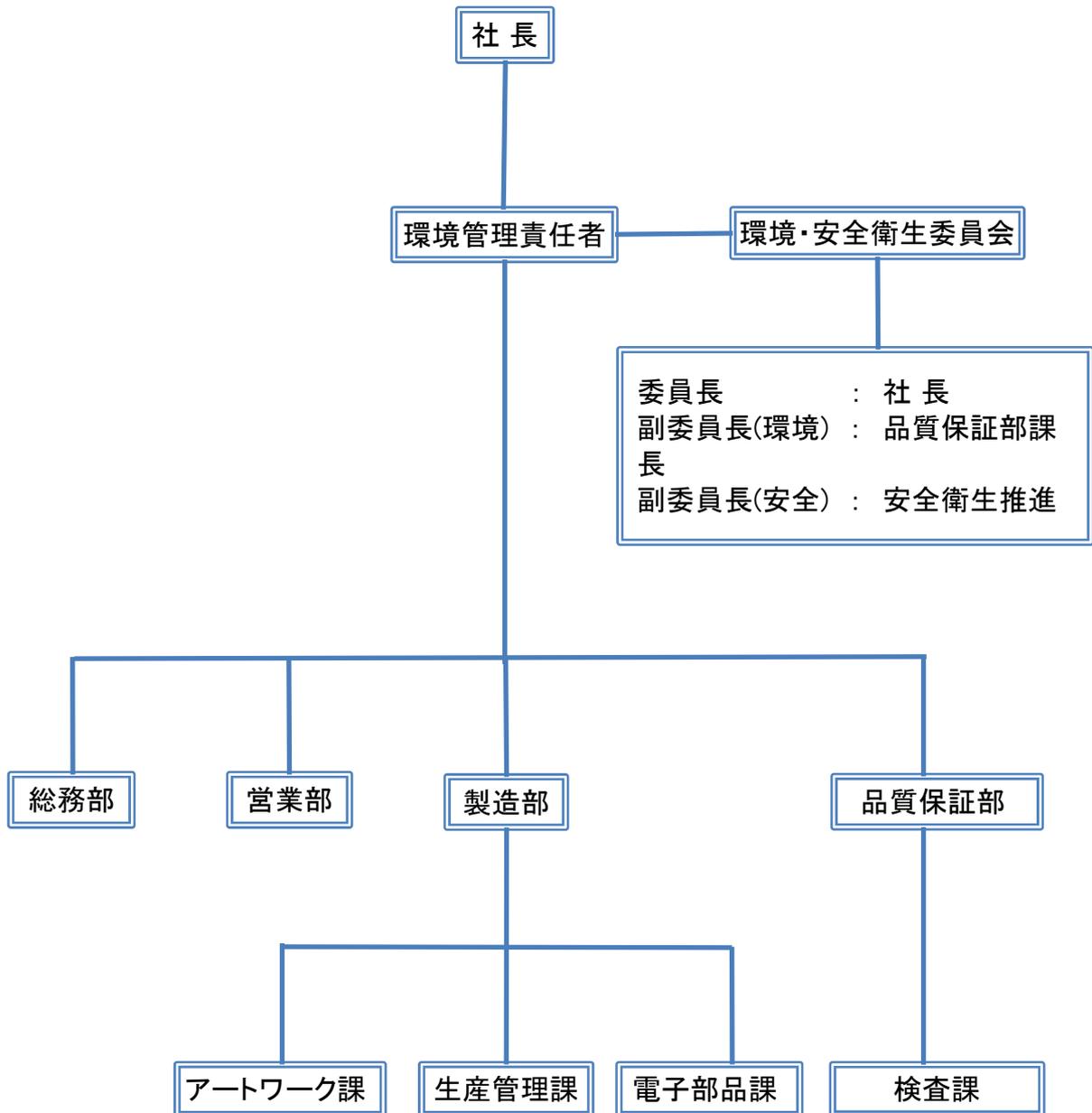
2. 対象範囲(認証・登録範囲)

全社(本社)環境管理組織(実施体制)

2024年10月21日現在

対象事業所:本社

対象範囲:プリント配線板の製造、メタルエッチング及び工業用精密マスクの製造



有資格者

特別管理産業廃棄物管理責任者 1名
A種除害施設等管理責任者資格 3名
安全衛生推進者 1名
作業主任者(特化物) 1名
化学物質管理者 1名

3. 環境経営方針

伸光写真サービス株式会社は住宅地域に密着した企業として、身近な周辺環境保全と資源の節減・回収・リサイクル問題に積極的に取り組み、環境に配慮した事業活動を推進し“かけがえのない地球環境を次世代に引き継ぐ”事を目指し次の環境活動を展開します。

- ① 事業活動より発生する各種廃棄物、化学物質の管理を徹底し法令を遵守すると共に、化学物質及び各種廃棄物の削減・回収・リサイクルに努めます。
- ② 水質汚染・大気汚染の予防及び騒音問題についても法令を遵守すると共に、地域周辺への配慮を優先した事業活動を行います。
- ③ 消費電力・ガソリンなどの削減を中心とした省エネルギー活動を行い、CO2の削減に努めると共にグリーン調達を推進します。
- ④ 環境に配慮した製品・サービス・生産活動及び製品品質の向上を通し、顧客や社会に貢献します。
- ⑤ 周辺住民との積極的な対話を持ち、環境保全についての地域行事に進んで参加します。

以上のことを実施するため、環境に関する目的・目標を設定し、定期的に見直すことにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善を推進する。
この環境経営方針は、全社員に周知させると共に、外部の利害関係者が入手可能にする。

制定日2005年06月20日
改定日2019年09月20日
伸光写真サービス株式会社
代表取締役 **峯村 儀勝**

4. 環境経営目標(今期及び中長期目標)

環境経営目的	環境経営目標/年	44期(2022年) 実績 前々期	45期(2023年) 実績 前期	3力年計画		
				46期(2024年) 目標 今期	47期(2025年) 目標 来期	48期(2026年) 目標 再来期
省エネルギー (二酸化炭素 排出量の削減)	電力使用量 (Kw)	114,659	133,414	132,080 45期実績 -1%	130,759 46期目標 -1%	129,451 47期目標 -1%
	ガソリン使用量 (L)	257	219	217 45期実績 -1%	215 46期目標 -1%	212 47期目標 -1%
	二酸化炭素排出量 (Kg-CO ₂)	46,339	875	866 45期実績 -1%	857 46期目標 -1%	849 47期目標 -1%
	電力排出係数	0.530	0.000	0.000	0.000	0.000
資源のリサイクル(3Rの推進、廃棄物等の削減)	一般廃棄物 (Kg)	245	211.4	209 45期実績 -1%	207 46期目標 -1%	205 47期目標 -1%
	産業廃棄物 (Kg)	33,017	35,319	34,966 45期実績 -1%	34,617 46期目標 -1%	34,270 47期目標 -1%
省資源の推進	水使用量 (m ³)	1,076	1,074	1,063 45期実績 -1%	1,053 46期目標 -1%	1,042 47期目標 -1%
	コピー用紙使用量 (枚)	37,000	30,500	30,195 45期実績 -1%	29,893 46期目標 -1%	29,594 47期目標 -1%
環境汚染の防止	化学物質の使用量・ 排出量の削減 (フィルム削減率 : 描画率%) ※廃酸・廃アルカリ削減	71.2	71.0	71.3 45期実績 -1%	71.5 45期目標 -1%	71.8 45期目標 -1%
生産活動での環境負荷の低減1	不良件数の低減(件)	ポカ+技術的件数 62	ポカ+技術的件数 58	ポカ+技術的件数 29 45期実績 -50%	ポカ+技術的件数 15 46期目標 -50%	ポカ+技術的件数 7 47期目標 -50%
地域社会との協調・連携	環境ボランティア活動の実施(回)	1回実施	1回実施	目標年1回実施	目標年1回実施	目標年1回実施
SDG'sの啓蒙活動	SDG'sの勉強会・アイデア募集	勉強会1回	勉強会1回	勉強会1回 アイデア募集1回	勉強会1回 アイデア募集1回	勉強会1回 アイデア募集1回

5. 環境経営計画(今期)

環境経営目標	今期取組内容
電力使用量の削減 (Kw)	<ul style="list-style-type: none"> ・ポカミス、技術的不具合50%低減を通じ、再製作の回数を減らし、設備稼働による電気量を削減する。 ・昼休み時間の照明電源OFFの徹底、冬期室温20℃以下、6月～9月の期間ウォシュレットの便座・温水の電源OFF ・12月～3月期の生産管理部、総務部の営業フロアへの移動(エアコン3台暖房停止) ・生産設備未稼働時の設備停止の徹底
ガソリン使用量の削減 (L)	<ul style="list-style-type: none"> ・電気自動車1台を主に用い、ガソリン削減を促進する。 ・客先訪問からWEB面談へ ・搬送集約、不良削減による協力会社間物品搬送回数の削減
二酸化炭素排出量の削減 (Kg)	<ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の98%を占める電気契約を全て再生エネルギーに切替継続。 ・ガソリン使用量を削減し、CO2削減を図る。
一般廃棄物の削減 (Kg)	<ul style="list-style-type: none"> ・ビニール袋の再利用を継続した。 ・外注業者から入る合紙、ビニール袋で再利用できるものは返却して再利用する。 ・段ボール、雑古紙はリサイクル業者へ活用。 ・緩衝材、封筒のリユース ・燃えるゴミに捨てられていた古紙のリサイクル業者へ活用の徹底。
産業廃棄物の削減 (Kg)	<ul style="list-style-type: none"> ・廃プラごみ削減のため、プラスチックフィルムへの描画率をアップし、フィルム使用効率をアップする。 ・不良削減による廃棄材料の削減 ・金属類は分別回収し、リサイクルへ活用。
上水道使用量の削減 (m ³)	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き以下の項目を実施 ・生産時に使用する水道水の量を個別の水道メータで管理 ・使用量の把握を一ヶ月毎に監視 ・不良再製作回数削減、非生産時の設備停止による設備稼働削減 ・水道使用量の上昇傾向から漏水を検出し、漏水箇所の早期修理に役立てる
コピー用紙使用量の削減 (枚)	<ul style="list-style-type: none"> マルチファンクションプリンタによるスキャナーの有効活用 (社内データのソフト化の推進) ・裏紙の再利用、両面・縮小コピーの継続実施 ・資料は印刷を極力抑え、電子データで保存。
化学物質排出量の削減 (%)	<ul style="list-style-type: none"> ・廃プラごみ削減のため、プラスチックフィルムへの描画率をアップし、フィルム作成時の溶液使用量の削減に努める。
ヒューマンエラーの低減 (%)	<ul style="list-style-type: none"> ・ISO9001の促進を通じ、不良低減に努め、不良再製作件数を低減することにより原材料・電気・水道・ガソリン等の抑制に結び付ける ・生産計画時に不良率の高い製品の対策検討を実施
環境ボランティア活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴見川清掃および近隣地域の清掃に取り組む。
SDG'sの勉強会・アイデア募集	<ul style="list-style-type: none"> ・自動販売機からの購入で横浜港清掃への寄付実施→社内へ周知 ・SDG'sに関する知識向上(勉強会の実施) ・SDG'sに沿うアイデア検討

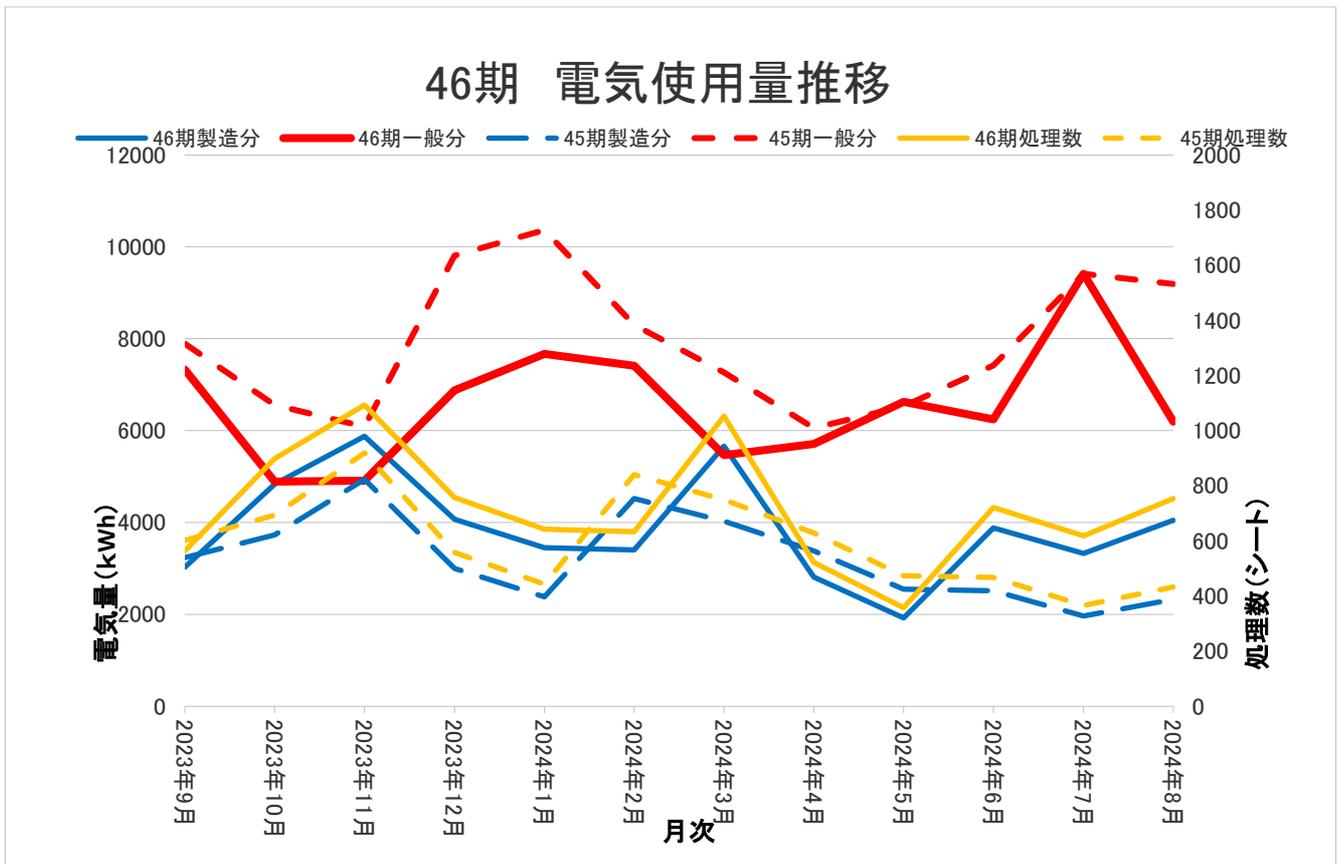
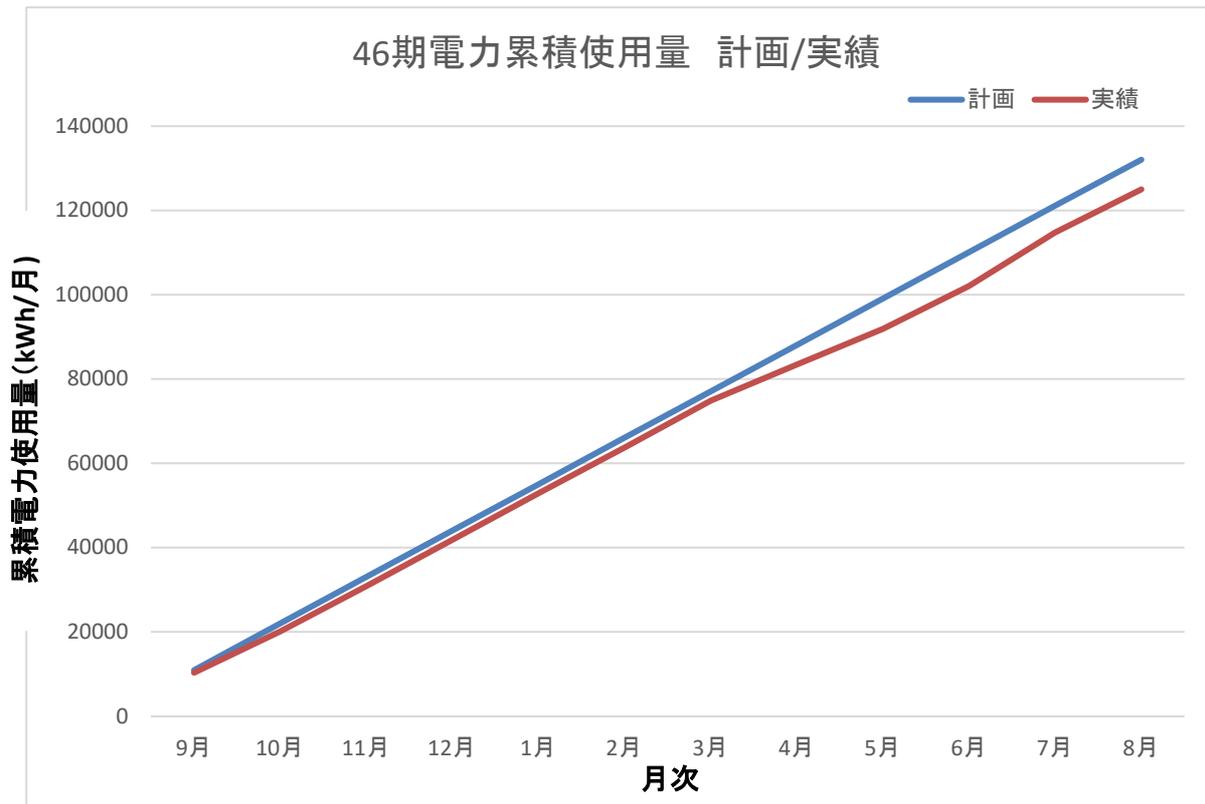
6. 環境経営目標の実績値・取組結果とその評価(今期)

分類	環境経営目標	46期 目標値	46期 実績値	取組結果	評価
省エネルギー (二酸化炭素 排出量の削減)	電力使用量の削減 (Kw)	132,080	125,012	-5.4%	○
	ガソリン使用量の 削減(L)	217	123	-43.3%	○
	二酸化炭素排出量の 削減(Kg)	866	458	-47.1%	○
資源のリサイ クル(3Rの推 進、廃棄物等 の削減)	一般廃棄物の削減 (Kg)	209	213	1.6%	△
	産業廃棄物の削減 (Kg)	34,966	32,721	-6.4%	○
省資源の 推進	上水道使用量の削減 (m ³)	1,063	1,344	26.4%	×
	コピー用紙使用量の 削減(枚)	30,195	26,500	-12.2%	○
環境汚染の 防止	化学物質 排出量の削減 (描画フィルム 利用率(%))	71.3	70.7%	+0.8%	△
生産活動で の環境負荷 の低減 ¹	不良件数の前期比 50%低減(件)	ポカ+技術的件数 29	29	0.0%	○
地域社会と の協調・連携	環境ボランティア 活動の実施(回)	目標年1回実施	11月実施	実施	○
SDG'sの 啓蒙活動	SDG'sの勉強会・ アイデア募集	勉強会1回 アイデア募集1回	勉強会1回	実施 未実施	△

2023年11月 鶴見川・会社周辺清掃のときの写真です



今期の電力使用量の目標値と実績のグラフ



7. 環境経営計画(次期の取組内容)



環境経営目標	次期取組内容	リスクと機会	SDGsとのつながり
電力使用量の削減 (Kw)	目標値: 123,762 kW 46期実績値 -1% ・ボカミス50%低減を通じ、再製作の回数を減らし、設備稼働による電気量を削減する。 ・穴あけ工程内製化に伴う電力増を未稼働時の設備電力OFF徹底と冬期に2部署を営業フロアに集約し、エアコン稼働台数を減らし電力削減を図る。	・リスク 資源利用の効率低下 支出増加 ・機会 CO2削減により温暖化抑制に寄与	気候変動への対策 
二酸化炭素排出量の削減 (Kg)	目標値: 454 kg 46期実績値 -1% ・ガソリン消費量の抑制によるCO2排出量抑制を図る。 ・電気契約 再生エネルギー100%の継続。	・リスク 気候温暖化により自然災害甚大化。鶴見川氾濫等被災の可能性が高まる ・機会 CO2削減により温暖化抑制に寄与	気候変動への対策 
ガソリン使用量の削減 (L)	目標値: 122 L 46期実績値 -1% ・46期の顧客訪問もWEB活用を継続予定。顧客訪問を控え、社用車の使用を45期並みあるいは以下に抑える。 ・エコモードに設定で運転する ・顧客打合せは出来るだけWEB会議を利用 ・協力会社間輸送回数の抑制	・リスク ガソリンペーパーが、PM2.5や光化学オキシダントとなり環境を破壊する呼吸器系や循環器系などの疾患リスクを上昇させる ・機会 CO2削減により社会貢献 排ガス低減による社会貢献	気候変動への対策 
一般廃棄物の削減 (Kg)	目標値: 210 kg 46期実績値 -1% ・次期は排出される廃棄物の種別を調査し、削減の可能性について検討し、削減に結び付ける。	・リスク マイクロプラスチックの有害物質吸着による生態系への影響 ・機会 安全な食材の維持	海洋汚染の防止 
産業廃棄物の削減 (Kg)	目標値: 32,394 kg 46期実績値 -1% ・次期は経済状況の好転が未だ見えない。今期の実績程度の受注数量を想定し、来期は今期実績の-1%削減を目標とした ・産業廃棄物の中からリサイクルが可能な物品を模索する。 ・再製作回数を減らし、廃材とする材料、薬液の量の増加を抑制する。	・リスク 基板材料の購入量増加により流通においてもCO2排出量が増加 不良増加による廃棄物増加 ・機会 資源の有効利用	資源の有効利用 
水使用量の削減 (m ³)	目標値: 1,330 m ³ 46期実績値 -1% ・水使用量はエッチングラインの冷却水及び処理量により左右される。次期も冷却効率の向上を検討し、増加を抑制する。 ・生産時に使用する水道水の量を個別の水道メータで管理する ・継続して使用量を一ヶ月毎に監視する ・再製作の回数を減らし、水の無駄使いを削減する	・リスク 大量の水排出により有害化学物質の流出が増加し生態系に影響 ・機会 生態系を維持 淡水の持続可能な供給を確保	水の利用効率の改善 

環境経営目標	次期取組内容	リスクと機会	SDGsとのつながり
コピー用紙使用量の削減 (枚)	目標値: 26,235 枚 46期実績値 -1% ・各部署の使用内容を棚卸し、ペーパーレス化を更に図る。 ・マルチファンクションプリンタによるスキャナーの有効活用 ・裏紙の再利用、両面・縮小コピーの継続実施	・リスク 森林減少による土地劣化の加速、生物多様性の崩壊により地球環境が崩壊へ進む ・機会 陸域及び内陸淡水生態系の自然循環により生物多様性を回復し豊かな自然を取り戻す	森林再生の大幅増加 
化学物質排出量の削減 (%)	目標値: 71.0% 46期実績値 -1% ・定期メンテナンス実施により設備不具合による書き直し抑制 ・廃プラごみ削減のため、プラスチックフィルムへの描画率をアップし、フィルム作成時の溶液使用量を削減する	・リスク 規制化学物質管理の不順守で行政の管理が厳格化 操業停止 ・機会 行政の信頼向上	水・土壌汚染の防止 
ヒューマンエラー及び技術的課題の改善による再製作の低減 (%)	目標値: 15 件 46期実績値 -50% ヒューマンエラー及び技術的課題の改善により再製作を前期比-50%低減する。 ・ISO9001の促進を通じ、仕事のルールを順守し不適合を低減する ・業務内で不良になりかけた事案を改善台帳に登録し、ポカミス・技術的課題の改善の糸口に活用する。	・リスク ヒューマンエラーによる再製作の増加で使用材料、電気量、水の使用量が増加し利益が減少 お客様納期の不順守 ・機会 納期順守、お客様の信頼向上、資源の無駄削減	資源の有効利用 
環境ボランティア活動の実施	引き続き、地域社会との協調として ・「鶴見川清掃活動」及び会社周辺の清掃をおこなっていく。 ・地域行事に協賛企業として参加する	・リスク - ・機会 地域周辺住民への環境意識の向上 環境への貢献・PR	環境面の良好なつながりで環境影響を軽減 
SDG'sの勉強会・アイデア募集	SDG's: 持続可能な開発目標について意識し推進することで子供たちの将来と働く場所を維持する。 ・定期的に勉強会を実施 ・勉強会の後、職場でのアイデアを募集	・リスク 異常気象による河川氾濫 甚大な暴風雨による被災 ・機会 温暖化の抑制 子供たちへ明るい将来働く職場の維持	持続可能な企業へ発展 

8. 環境関連法規制等の遵守状況の確認・評価結果、違反・訴訟等の有無

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、違反はなく遵守されています。
また、関係当局より違反・訴訟等の指摘は創業以来ありません。
(主要関連法規のみ掲載します)

主な適用法規制	内 容	遵守状況
地球温暖化対策推進法	CO ₂ 削減率 2013年基準に-99.3%	○
下水道法 水質汚濁防止法	公共下水道排水の定期分析異常なし(横浜市の監査問題なし)	○
廃棄物処理法	各市町村処理・運搬許可書確認済み。 JWケミテック産廃、特管処分業許可証更新版入手	○
フロン排出抑制法	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化(設備点検済み)	○
横浜市条例	A除外施設問題なし 資格者保有	○
資源有効利用促進法	使用済み物品等及び副産物の発生抑制並びに再生資源及び再生部品の利用の促進に関する所要の措置を講ずる	○
製品含有化学物質管理(業界標準)	RoHS2、REACH SVHC(含高懸念物質) コンゴ民主共和国等産出の紛争鉱物	○
消防法	対象:危険物。消火器定期点検・期限監視 危険物安全対策	○
労働安全衛生法	特定化学物質障害予防規則(特化則)	○
化学物質排出把握管理促進法	2023年度分 届出対象物質なし	○

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

今期は売上高が前期比-2.3%減少する中、

- ①電気契約を引き続き再生グリーンエネルギーを100%用い、CO₂低減
- ②冬期エアコンの電気量増大期(12月~3月)に分散している部署を1フロアーに集め、電気量削減
- ③引き続きWEB会議活用・協力会社への配送集約によるガソリン使用量抑制
- ④不良発生件数目標-50%を達成し、電気、水、材料の使用量抑制

など、売上をカバーするべく、削減に努めた一年でした。

また、電気はクリーンエネルギー100%に今期も引き続き使用したこと、またガソリン使用量を抑制したことからCO₂排出量は少量ながら前期比-47.1%減少と大幅に削減出来ました。

しかしながら、新規受注した量産品で水を多量に使用したため、水使用量は前年比26%増と大幅に増加したこと、さらにこれまでリサイクル出来ていた第2塩化鉄が新規量産品で銅以外の成分が廃液に含有するため、産業廃棄物として中和→固化埋立の処理に変更となった。

従って、今期は資源消費量が増えた年でした。

次期は改めて継続的改善として次の取り組みを行います。

前期より取り組んでいる持続可能性への新しい物差しSDG'sを引き続き考慮に入れ環境対策を推進します。

1. 基板材料削減を主とした資源の有効利用のために、次期もKPI(指標)としてヒューマンエラーと技術的課題による

不良件数低減率の設定をします。

また業務内で不良になりかけた事案、不良率20%以上品も台帳に登録し、原因・対策究明を実施することで資源利用率改善を図ります。

これにより基板の再製作を減らし電力使用量、水使用量、産業廃棄物も削減します。

2. 災害時の影響を低減するために、事業継続プランを見直しし、緊急時の内部・外部への影響を軽減します。

3. 法令・規制遵守の確実性を向上します。

引き続き、地域社会との協調として「鶴見川清掃活動」及び会社周辺の清掃をおこなっていきます。

また地域行事に協賛企業として参加します。

今後も持続可能な企業への発展を目指し、SDG'sを意識しながら、環境へ配慮した企業活動を継続してまいります。

2024年11月8日

代表取締役

峯村 儀勝